

## 第 10 回辰野町行財政改革推進委員会 会議録

平成 27 年 10 月 8 日（木）

9：00～10：45

辰野町役場 第 2 会議室

出席者：委員 12 名、教育長、課長等 10 名、事務局 5 名  
町長（答申時）

欠席者：瀬戸委員、福島委員、小澤委員

配布資料：次第、資料No.1 辰野町人口ビジョン、変更箇所、第六次行財政改革大綱（案）、第六次行財政改革大綱推進プログラム（案）、答申書、

追加配布：資料No.3 辰野町まち・ひと・しごと創生総合戦略

進行：まちづくり政策課 山田課長

本日はいよいよ答申ということですので、よろしくお願ひします。本日、委員の中で瀬戸委員と、福島委員から都合により欠席する旨、連絡を受けています。

町長は答申の段階でこちらへ参りますのでよろしくお願ひします。

5 日（月）から辰野町第五次総合計画の後期基本計画、まち・ひと・しごと創生総合戦略、そしてこの第六次行財政改革大綱の住民説明会を行っております。皆さんもぜひ出席ください。

### 1. 開会（赤羽副会長）

皆さんおはようございます。それではただ今より第 10 回辰野町行財政改革推進委員会を始めたいと思います。前回同様、大勢の方に意見をを出していただき、充実した会議にしたいと思います。どうぞよろしくお願ひします。

### 2. 会長あいさつ（外戸会長）

皆さんおはようございます。日頃、いろいろな会議、いろいろな活動に町の職員の方、関係者の方、お疲れ様です。午前 9 時からの会議はあまり聞いたことがないですが、いろいろな都合があるのでしょう。前回審議いただいたので、本日の主は町長への答申かなと考えております。チャンネルを変えます。10 年前、事務事業評価をさせていただいた時に、山田課長が、私と上島さんに配った資料の中で、久慈市の事務

事業評価の資料に、これからは自治体も経営だとありました。経営とはなにか、民間しか知りませんので、ポイントは、結論は納期だと思います。QCD。Q品質・クオリティ、Cコスト、Dデリバリ納期です。学んでいて、一番欠けているのは、民間は納期がなくては仕事にならない。要は、結論は何だということです。A4 でまとめられる能力を。そこを皆さん方が、検討する検討する、検討するはいいんです。いつまでに誰がどのように検討するのか、を書くのがこれからのポイントだと思います。チャンネルを変えます。高齢化、高齢化がますます進むとお金が入りづらくなります。そうしたらどうするか。知恵を出す、知恵を出す雰囲気を作るのがポイント。成果主義も強力にやれば弊害が出ると思います。結果として精神的にまいってしまう。何事もほどほどに。柱を立ててPDCAをまわし続けることが大切です。それではよろしくお願ひします。

外戸会長

事務局からご提案があるということでお願ひできますか。

山田課長

(案)の審議に入る前に、前回、人口推計につきまして質問がありました。資料がなかったものですから、あいまいな数字をお伝えした経過がありますので、辰野町で作っている人口ビジョンについてご説明を申し上げるなかでご理解いただいたほうがいいかなと思います。これについても住民説明会で説明しておりますので、ご意見等いただければと思います。

辰野町人口ビジョンの概要について説明（加藤補佐）

人口ビジョンは、辰野町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定のために国が示した試算方式に基づき策定したもので、6月に暫定版（全45頁）として公表。本日は資料No.1によりポイントのみ説明。現状分析により人口の推移、人口動態の説明。将来展望、行革大綱の最終年度H32年までに達成を目指す最低水準について説明。人口減少対策を講じ、人口減少に歯止めをかけていきたい。

補足（山田課長）

人口にもいろいろな種類の数字があり、一つは、住民基本台帳の人口、広報たつので毎月の人口の動きが載っていますが2万400人～300人。これは学生さんが都会に行っても、住民票を残してする人数も入ってい

る。実は、実際にここに住んでいる調査（国勢調査）があり、現在やっている。前は22年、5年前に行った。減ってくるだろう。おそらく2万人を切るだろう。国勢調査を基に社人研が推計を行ったものが、平成27年の人口19,882人。現実的には調査を行うことにより、これよりもさらに下がるかもしれない。速報値がでるのが、来年の2月。その数字を見ながらあまりに数字が違ふようでしたら、独自に計算し直さなくてはいけないかなと思っている。

ここについては、初めて資料をお示ししましたので、ご意見等あれば。

補足（加藤補佐）

最初のページH22の人口20,909人のうちの4人は年齢不詳のため、最後のページのグラフでは20,905人スタートとなっておりますが、年齢不詳分を考慮して（除いて）いるので、4人の差があります。

外戸会長

議論をしたいと思います。なんでも質問意見、いつものように自由に発言をしていただけますか。

D委員

今の説明で、数値の上ではグラフのとおりだと思うが、そのためにどのような政策を施していくのかお聞かせ願いたい。

山田課長

お時間をとらせていただければ、施策をまとめた総合戦略について、ご説明をさせていただきたいがよろしいでしょうか。

外戸会長

ぜひ、お願いします。これが一番大事なことじゃないか。

議論をしたいので、説明はなるべくポイントを絞ってお願いします。

辰野町まち・ひと・しごと創生総合戦略（資料No.3）の説明（加藤補佐）人口の将来展望を踏まえながら、将来像・まちづくりの合い言葉を実現するため、4つの基本目標を立て、政策展開していくもの。24の分野、64項目を総合的に展開。

町だけでなく、町民、地域、企業、教育機関等、それぞれの立場で推進していただき、辰野町創生総合戦略推進会議で、毎年見直しをしていく。

質問、意見等

A委員

人口減少が全国的な傾向であるのは当然だが、社会減について、企業が出て行ってしまふ、そこに働いている人たちが転出してしまふなか、企業誘致は？住環境の整備、町営住宅だとか。企業誘致に伴って異動する人、新しい企業の誘致に重きを置いてほしい。

山田課長

企業誘致は、力を入れていかななくてはいけない。昔は、工業団地を造成し、企業にきてもらう、というものだったが、現在8億5千万の売れ残った土地がある。今考えているのは、町民の方から情報をいただけないか、そういうシステムを考えていかなければと思っている。アンテナを広くしなくてはいけない。宅地の関係では、昔は土地代が高かった。地価も逆転してしまひ、南箕輪よりは高いが、箕輪町や伊那市よりは下がっている。箕輪町より安い等、うまくPRしていくべきかと考えている。

B委員

総花的である。この中で、一番効果的だと思われていることは何ですか。これを大きな柱としてやっていくんだよ、というものは。

山田課長

悩んでいるところです。4つの基本目標の施策の下に★印で新しい施策が載せてあります。総合戦略はどうしても総花的に作らなくては行けませんので、そのなかでも、町がこれから力を入れる事業が載せてあります。インターンシップ事業など。そこは産業振興課長から。

飯澤産業振興課長

今までも町では、新しい企業がきたときには補助金を出している。また、設備の資金融資をしたりしている。新たに、県下でも珍しいがインターンシップ事業（小野酒造、天竜パン、春日自動車工業所）を行っている。企業の意識調査を行ったりもしている。人材の課題として、都会に出て行った人たちに戻ってきてもらえるような雇用情報の発信の準備を整えている。

#### C委員

ちびっこ愛ランドへ行った際、職員と話す中で、待機児童なんて言葉を聞き驚いた。0歳、これから出産する子どもを預けたいが、順番待ちだと聞いた。0歳児を預けられる保育園は3つしかない。経済基盤を作らないと、次の子どもを産む気にならない。0歳児を受け入れる保育園を少し増やしてほしい。その現実の声を聞いて、現役のお母さんたちの産める条件を整えてあげるのが必要。

#### 石川こども課長

0歳児については、町内では3園の保育園（中央、新町、東部）で対応している。0歳児は、子ども3人に対し保育士1人を配置しなくてはいけないため、なかなか厳しいわけですが、現在待機児童はいないと考えている。相談いただければどこの保育園はだめだが、こちらならば余裕があります等お話をさせていただいているので、だいじょうぶだと。実際にご相談をいただきたいと思います。

#### C委員

他の保育園では施設の問題等で、受入態勢ができていないから受け入れられないと聞いた。生の声だと思うので、課長の立場と、お母さんの声のギャップが感じられた。現場に足を運んでもらわないと。現場を把握してもらいたい。

#### 外戸会長

感想ですが、外を歩いていると、お年寄り、腰が曲がった方、杖をついた方、電動の車の方、外へ出られない方も多し。光輝くため、総合戦略の4つの柱はいいが、夢じゃだめ。希望ではだめ。統計が出ている、だからこうなる、という根拠が必要だと思います。

#### D委員

出生率、働いている女性のほうが高いそうです。なぜかという生活基盤、収入があるから第二子、第三子と産める。なので、働くお母さんたちに照準を合わせた子育て支援をしていただけたらな、と思います。

#### 石川課長

保育園に預けるお子さんの低年齢化が著しい。そういう保護者に対応できるよう、0歳児を預けられる施設も、もう少し増えるといいなと考え

ている。先ほどの話だが、あるところで聞いた話だが、平出で保育園に小さいお子さん（0歳児）を預けたいとき、平出では乳幼児の受け入れはできないと言ったことが、町中受け入れられないと捉えられてしまうと聞いたこともある。正しく状況をお知らせしていくことが重要である。働くお母さんの子育て支援については、充実させていきたい。

#### E委員

人口増やすためには、女性が子どもを産み育てやすい環境が一番、働く職場も必要。TPPが締結される頃には、企業の海外進出のメリットもやや薄まる。そうするとこれからは地場産業も増える可能性もある。女性が働きやすい職場を増やすことが一番だと思う。ぜひ進めてもらいたい。

#### F委員

まちづくりの合い言葉や、②の町への新しい人の流れをつくろうにもあるが、異常気象を心配する方も多く、辰野町は危険箇所がいっぱいあるということで、住みたくても危険で住めない、住むための安全な場所の確保していただければいい、また危険箇所の対策をしてもらえたらいいかなと感じる。

#### 一ノ瀬総務課長

辰野町には、確かに、県が示した急傾斜地が多く、土砂災害危険箇所（イエローゾーン）が多いのは事実。町長の施策にもあるが、安全安心な町を作りたいというのが一番のテーマですので、それに沿って危険箇所については、関係機関と協力しながら体制を整え、除去していきたい。

#### G委員

総合戦略の配られた資料の下のぴっかりちゃんの枠のところに書かれているもの、一番大事な目標にしないではいけないところだと思うのですが、企業も進出したいという、建てたり、設備を持ってくることはできるかもしれない。基本的にはそこで働く人が大切なわけで、いろいろな企業の半分以上が町外から通勤している、逆に言うと、半分くらいは町民も外へ出て仕事をしている状況にあると思う。ですので、人材を育てる、そこが基本にないといけない。ここで仕事をしろよというわけではなく、ここで暮らしてもいい生活ができるという地域を作っていくてはいけない。結婚して住みたいまち、子育てしやすいまちが基本になると思う。

## H委員

辰野ブランドの創設とあるが、辰野町からこれをもっていけば辰野町のお土産として安心だというようなものを考えてもらいたい。また、プレミアム商品券 500 円券（特産品専用）の消化が難しい。あるお酒はいいが、同じメーカーのものではほかのものはいけないだとかある。あの商品券を消化するのが難しいという問題がある。これを持っていけば安心だという誇れるものを考えてもらいたい。

## 飯澤課長

全国的にも珍しい取り組みとして自負しているが、500 円券、使いにくいという声がある。特産品のパンフレットを一緒にお渡ししている。特産品を増やすという効果もあり、28 品目に増やした。今回、使うものとしてはお蕎麦屋さん、ほたる井などを今まで知っていても食べたことがなかった人にも食べていただきたいという、また、お歳暮やお中元に使ってもらうきっかけとして知っていただくためつけました。使いやすくするため、HPにも掲載するようにしました。

ブランドの創設では、林産特産物まつたけなどは誇れるものなので、辰野ブランド化を進めるために、創生のなかでも、増産に向けての事業を仕組んでいるところです。

## I委員

別の会議にも出ていて、辰野町の場合、起業していく、あるいは農業も後継者がいない、同業組合もあるが、規制し合っている、ひとつづくりは成功していないと思っている。結局、企業も地域社会もひとがかかっている。一人ひとりが、自由に自分がしたいことにチャレンジできる、そういうことに、支援していく、多様性を認め、新たな意欲を持てるような社会を作らないと、行き詰る。どうしていくかはむずかしいが、そういう施策を考えなくてはいけない。そういう意味ではここにも、よく出てはいる。

### 3. 協議事項（進行：外戸会長）

#### （1）辰野町第六次行財政改革大綱・推進プログラム（案）について

##### 山田課長

前回大綱・プログラムをご協議いただき、9月18日の意見、そのあと行ったパブリックコメント、またその後も修正できますと、委員の皆様

様にも意見等お願いしておりましたが、ここで案がまとまりましたので、ご協議をいただきたいと思えます。

事務局説明（原）

委員の皆様には、変更箇所を朱書した答申案を事前に送付してありますので、そちらをご覧いただいたほうがわかりやすいようでしたら、そちらをご覧ください。

全体に関わる場所ですが、主要な取り組みと呼んでいた場所ですが、総合計画の形態に合わせまして主要施策に変えさせていただきました。

こちらについては、推進プログラムについても出てきます。一番、左側の部分も主要施策に修正させていただいております。

続いてP1書き出しの部分ですが、前回の委員会で意見が出まして、もう少しシビアな部分を、加えるべきではということで、3行目、税収の減収などのあとに「今までの財政規模を今までと同じように維持していくことは厳しいという状況を行政と町民が共通認識したうえで」という文言を追加しました。

続いてP4公募制については漢字の変換誤りによる字句の訂正です。

P5の現状と課題8行目ですが、ふるさと納税の部分の文末ですが、適正な確保を図ります、でしたが、現状と課題の部分ですので、図ることが必要です。に変更しました。

同じようにP6の施策2-2現状と課題7行目、執行に努めていきますを、執行が求められます。また、9行目の最後のところですが、軽減に努めていきます、を軽減に努めることが必要です。に変更させていただきました。P8施策2-4現状と課題の6行目文末ですが

導入していきます、を導入していく必要があります、に修正させていただきました。同じP8の現状と課題の中にPDCAサイクルの部分ですが、前回の委員会で意見が出ておりましたが、このPDCAの略については、辰野町行政評価システムの要領の中で計画、実行、評価、改善を使用していますので、要領と一致していないとおかしいですので、このままにしたいと思えます。ただ、冊子になったときに後ろにつける用語解説で、PDCAサイクルについて、など詳しく説明を入れていけばいいかなと考えております。前回からの変更点は以上です。

山田課長

訂正をかけさせていただきました。よろしければ、この案でいけるか協議いただき、答申を。



A委員

P2 の施策 1-1 現状と課題の中の、「それらに柔軟に対応することができる組織」となっているが。

山田課長

「対応することができる組織」に修正します。

A委員

P5 《21、22》上下水道料とあるが、下水道は料金ですか、使用料ですか。

小野課長

上下水道料のところを上水道料金・下水道使用料に。

B委員

P1 見出しの朱書きで追加された部分 3 行目

「今までの財政規模を今までと同じように」、と重ねていますが、意識してこうしているのか。

山田課長

本人は意識していましたが、こう読んでみますとおかしいですので、2 番目の今までのところは、「今後も」にしたいと思います。

「今までの財政規模を今後も同じように」としたいと思います。ありがとうございます。

D委員

推進プログラムの 3 番、職員の資質向上のために研修を行うとありますが、具体的には頻度と内容を簡単にお聞かせいただきたい。

また、最近気がついたことをお話したいのですが、ある研修会に参加したとき、職員の方が、「先ほど資料をお配りしたか」とありますが、資料のほうご覧ください」と、なんでもなく耳に入る方もいらっしゃるかもしれませんが、さっき配った資料のことをそのように言っていた。柔らかい断定的な言い方を避けた若者言葉なのかと思っていたが、50 歳を過ぎた定年に近い年配の方も使っていた。気になった。

出生届提出しに行ったとき、おめでとうの言葉なく、第 3 子目でよう

やくおめでとうと言ってくれてうれしかったと実際聞いて驚いた。わたしの子どもの婚姻届出しにいったときもおめでとうの言葉がなかった。そういった基本的な言葉を住民にかけてもらえれば、そんな研修もしていただければと思います。

一ノ瀬課長

そういった研修もこれからやっていきたいと思います。研修ですが、年に50くらいのプログラムの研修がある。積極的に職員に参加するようお願いしている。前回、外戸会長から指摘のありました研修の報告について、レポートでの報告でしたが、職員が研修会から帰ってきた際には、報告会を、少なからず課の中で情報伝達、報告を行うよう、課長会で通達したところです。人事交流については、今現在は、県へ1人、上伊那広域連合に2人派遣をして、他機関と研修をしている。昨年までは厚生労働省へも派遣していた。今後も役場と違った機関への派遣研修にも取り組んでいきたい。

A委員

プログラムの関係で、毎年、評価がABとか出る、それを各年度の下に示してもらいたい。そのほうが、全体の流れがわかる。ずっとAできたのか、途中でCになったとかがわかりやすい。そのほうが議論しやすい。できればそうやってほしい。

山田課長

貴重な意見ありがとうございます。検討していきたい。

D委員

《15》公募委員のところに原則として重複は避けるとあるが、充て職とかありますよね、その場合、重複はいいのか。

山田課長

自分で手を挙げて入りたいというのは2委員会までと決められている。識見を有する方だとか町からお願いしているものはカウントしていない。

外戸会長

個人では2つまで、町からは無制限ということか。

山田課長

前回、それがどうしても同じ団体からという意見もありましたので、今後、団体から推薦いただくような方法にも変えていきたい。

C委員

今年、総務課長とも相談し、会議の数や内容を精査し、他の団体にも振り分けて、長がそんなに出なくてもいいように、裏を返せば、女性がひとりでも多く会議に出られるように考えていきたい。

大槻委員

私どももたくさんあるので、中で自由にできるように。老人クラブとしてこの会合には出なくてもという会議もあるので、それはまた別の機会に申し上げるが、お願いします。

C委員

明推協とか、生活改善とか、毎年同じような内容の会議もある。会議の数が多くなるのはわかるが、出る人が分配されればいいかというのと、前にも言ったとおり、会議の見直し、合理化も一案として考えてもらえたら。

D委員

女性の登用率、五次のときは目標 50%に対して、昨年度までに 25%と道半ばですので、今回載ると期待していたが全然載っていない。お聞かせ願いたい。国も県も女性の活躍の場を広げ、企業においても物が売れる社会、生産性を高める女性の視点を大事にしている。行政の面でも女性ならではの視点、考え方もあるので、行政のなかでも活かしたいと言っているが、町としてはどのように考えているのか。

山田課長

女性の登用の関係については、行革大綱からははずしてあります。総合計画後期基本計画の取り組み目標①の町民参画・協働のまちづくりの中に男女共同参画の項目があります。目標値としても謳っております。50%。基は、ほたるの里男女共同参画プランからきています。

桑澤生涯学習課長

ほたるの里男女共同参画プランは現在策定中です。アンケート調査を実施し、その結果をとりまとめ、反映したプランを作成したい。前回同様 50%を目標としています。しかしながら現状は 25%。委員会、審議会を含めた条例の中で謳い方、公募の仕方にもよりますが、いずれにしても県の目標等も考慮する中で定めていきたいし、プランを作成していきたい。

外戸会長

建設的なご意見をいただきありがとうございました。

山田課長

今の意見等を踏まえ、今の案でこれで答申するというのを、皆さんに諮っていただければ。

外戸会長

提出する答申書を読み上げ、確認。よろしいでしょうか。

異議なし。

山田課長

慎重審議、ありがとうございました。それでは、外戸会長から加島町長へお渡しいただきます。

#### 4. 答申

委員長から町長へ答申書を渡す

町長

一言、お礼申し上げたいと思います。

ただいまは、第六次行財政改革大綱また推進プログラムにつきまして諮問しましたところ、会を重ね内容等審議いただき、答申をいただきまして誠にありがとうございました。総合計画後期基本計画を策定にあたり、基本構想にありましたように、推進の目標、将来像実現のための指針として大きく将来目標とそれを実現するための目標として、この行財政改革が欠くことのできない要素になってきたわけであり、行財政の改革がなければ推進ができない状況にありますので、答申に従いまして、これからの大綱を進めていきたいと思っております。どうしても人口減少が進む中、これからいかにしてそういったことを推進していくか、大きな手

段となると思いますので、行財政改革を通じて進めていきたいと思いません。

5. その他

今後の日程（赤羽補佐）

住民説明会において、要約した部分を説明。10月16日基本構想審議会。  
11月初旬に町の基本構想審議会では答申、議会で最終審議、年中には完了。

山田課長

今年度の委員会は、とりあえずは終了。

なにかありましたら急遽お集まりいただくこともある。

6. 閉会（赤羽副会長）

以上を持ちまして本日の会議を閉じたいと思います。向こう5年間の辰野町の在り様を、一人ひとりが注視し、行動して、住みよい辰野町になるよう願っております。慎重審議、お疲れ様でした。